

横山武志

九州大学大学院 歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 歯科麻酔学分野 教授

神奈川歯科大学 生体管理医学講座麻酔科 客員教授 (併任)

昭和大学歯科病院 歯科麻酔科 兼任講師 (併任)

## 略歴

昭和 61 年 3 月 東京大学医学部保健学科卒  
平成 2 年 3 月 大阪大学歯学部歯学科卒 (歯科医師)  
平成 2 年 4 月 国立がんセンター生化学部リサーチレジデント (2 年間)  
平成 4 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科修了 (医学博士)  
平成 4 年 4 月 東京大学医学部附属病院口腔外科医員  
平成 4 年 10 月 東京大学医学部附属病院麻酔科医員  
平成 6 年 4 月 高知医科大学歯科口腔外科助手  
平成 7 年 5 月 高知医科大学麻酔科に助手  
平成 15 年 6 月 同 講師  
平成 16 年 6 月 高知大学医学部麻酔科学講座助教授  
平成 17 年 7 月 アイオワ大学留学 (～平成 18 年 4 月)  
平成 20 年 4 月 神奈川歯科大学客員教授を併任  
平成 20 年 9 月 高知大学医学部附属病院麻酔科科長代行 (～平成 21 年 3 月)  
平成 21 年 4 月 現職。

## 資格等

日本歯科麻酔学会認定医、専門医、指導医

日本臨床モニター学会評議員

## これまでに従事した主要な研究

- ① マウス神経型一酸化窒素合成酵素 mRNA のクローニングに初めて成功し、上流域に多様性があることを明らかにした。(国立がんセンター生化学部)
- ② 口腔扁平上皮癌から樹立した 10 種の細胞株の p53 遺伝子における遺伝子変異を解析した。(高知医科大学歯科口腔外科)
- ③ 1970 年代にアスピリンジレンマという概念が提唱されていたが、それまでアスピリンの出血時間は用量依存性に延長すると考えられていた。中等量アスピリンの投与により出血時間が短縮するというアスピリンジレンマを初めて報告した。(高知大学医学部麻酔科学講座)
- ④ 硬膜外麻酔で正しく硬膜外腔に穿刺されているかどうかを手術室内で簡便に確認する Epidural-Queckenstedt 法を考案し、報告した。(高知大学医学部麻

#### 酔科学講座)

- ⑤ アミノ酸の経口投与および経腸投与による全身麻酔中の低体温予防効果をラットモデルで検討した。(高知大学医学部麻酔科学講座)
- ⑥ マウス、ラットの炎症性および非炎症性慢性疼痛モデルを用いて、プレガバリンの鎮痛作用の特徴と効力について検討した。また、運動負荷と非炎症性慢性疼痛との関連について検討した。(アイオワ大学)
- ⑦ デンタルチェア上での胸骨圧迫効率など、歯科診療中に発生する危機的偶発症に対する対処方法およびその効果について検討した。(高知大学医学部麻酔科学講座)
- ⑧  $\mu$  オピオイドであるレミフェンタニルの催眠鎮静作用についてその特徴と効果を検討した。(高知大学医学部麻酔科学講座)
- ⑨ 高知大学理学部との共同研究で、S-ケタミンの不斉合成に初めて成功した。(高知大学医学部麻酔科学講座)

#### 著書

【単著】横山武志／監修 諏訪邦夫「若い医師のための麻酔科学」ベクトル・コア出版 2007年

【単著】横山武志／監修 諏訪邦夫・吉田和子「誰でもできる歯科医療事故の防ぎ方」ベクトル・コア出版 2008年

【分担執筆】牛田享宏、山崎文靖、横山武志、佐藤隆幸(森本昌宏、編)「脊髄電気刺激法」XV 血圧コントロールシステムとしての脊髄電気刺激療法 p211-20 克誠堂 2008年

【共著】横山武志・山下幸一／監修 諏訪邦夫「若い医師のための麻酔科学 改訂版」ベクトル・コア出版 2009年

【分担執筆】横山武志「歯科麻酔学」第7版 第5章 全身麻酔：IV 吸入麻酔薬 p268-84 医歯薬出版 2011年

【分担執筆】横山武志「臨床歯科麻酔学」第4版 第7章 全身麻酔：4 筋弛緩薬 p226-31 医歯薬出版 2011年

【単著】横山武志／監修 諏訪邦夫「好きになる麻酔科学」講談社サイエンティフィック 2011年

#### 趣味

ビリヤード。高知県代表として都道府県対抗戦、名人戦、内閣総理大臣杯、全日本9ボール選手権、14-1 オープンなどに参加。